

3. トレジャーハントツーリング (①誕生秘話)



THT誕生秘話

トレジャーハントツーリング(THT)の原点は、山形県鶴岡市で2002年5月に行ったロングライドイベントの代替企画です。それから3年の熟成期間を経て2005年夏から秋にかけて、鈴鹿、東京、横須賀と一気に原形が固まりました。

特に横須賀での開催時に、新聞記者からの素朴な質問が、目からウロコ状態でした。

例えば、「新聞の読者は一般人であり、パンク修理を含めた自己責任について、よく理解していない」、また「普段15分程度の自転車利用の人に、2時間や3時間は未知の世界」など、かなりハードルを下げたつもりでも、サイクリスト目線の企画であったことを痛感しました。

その質問は持ち帰って検討し、現在の「事故に遭った場合」や「地図内自転車店」、「制限時間の設定」などにつながっています。

そして2006年3月5日に「東京」「横須賀」「彦根」「岩国」の4会場で、共同告知・全国集計のプレ大会を行うに至りました。

その過程で、シマノ鈴鹿ロードでのマップ&問題を手にした東京自転車展の担当者や、東京自転車展の情報を見た彦根の街づくりスタッフなど、THT26の可能性を直感してくれた人がいたことは見逃せません。

§ 2005年8月の「シマノ鈴鹿ロード」でセルフ参加のツーリング企画として実施するが、参加者は一桁でした。しかし、コースやトレジャーポイントの調査を依頼した地元スタッフからの報告にデジカメの写真があったため、それを利用したビジュアル系の問題用紙が初登場。

§ 2005年11月の「東京国際自転車展」で実施し、ステージで表彰式を行う。しかし、集計方法が超複雑で、司会者が説明するのに苦労していた。

§ 2005年12月4日に「横須賀◆◆自転車さんぽ」として単独開催。神奈川新聞の取材で、読者の立場で記者から質問され、日常利用とスポーツ利用の意識の差を痛感。

3. トレジャーハントツリーング (②わらしべ企画)



わらしべ企画

鈴鹿でマップを入手した東京サイクルショーの企画担当者、東京の情報を見た彦根のショップスタッフなど、企画初期から「わらしべ企画」の特徴がチラホラとありました。そして……。

「トレジャーハントツリーング26」として確立し、3月にプレ大会を行った後、5月にサツキのラリーデーとして「栃木」「神奈川」「滋賀」「大阪」「山口」「福岡」で集中開催をする。それに対し、興味を示したメーカーから協賛のオファーが。

市民参加を望むロングライドイベントに、2006年時点では未完成部分があったにも係わらずサブメニューとして採用される。3回目の今年は100人規模の人気メニューに!

「観光レンタサイクル+協賛店舗+情報雑誌」とのジョイントや、「観光キャンペーン」とのジョイントを積極的に行うが、狙い通りの参加者があったものの、反応はイマイチ!?

街づくり団体や自転車NPO、さらにイベントの緊急企画での開催オファーがあった。短期準備期間でも対応可能なことを証明。

面白さと可能性を、参加者から保証されたと感じています。どう変化するか分からない「わらしべ企画」、細く長く広く、育てたいと思います。

§ チラシの解説 (左上から)

- ・**プレ大会**: 2006年3月5日、「東京」「横須賀」「彦根」「岩国」で共同告知・全国集計の同日開催で実施。
- ・**モエギ&モミジのラリーデー**: 07年春、秋、08年春、秋の4回、ライトウエイプロダクツの賞品協力で実施。
- ・**山口セレクション**: 山口ディスティネーション観光キャンペーンに合わせての10会場セルフ参加企画。
- ・**しものせきサイクルマラソン**: ロング130km、ミドル45km、そして「自転車さんぼ15km」として採用される。
- ・**自転車さんぼ時めぐり**: 「レンタサイクル+協賛店舗+情報雑誌」のコラボ企画。もう一工夫が必要。
- ・**パイクロジ-全国大会**: 4年に1回となった全国大会に実走メニューを加えることに。短期間でも対応可能。